

For-side.com

2006年度第4四半期決算業績概要

For-side.com Co., Ltd.

2006年12月25日

本資料にて、当社第4四半期の連結・単体の業績を
ご説明させていただきます。

(今年度は決算期変更の為、14ヶ月の変則決算となっております。)

～前年同期連結業績との比較～

●売上高: 63,325百万円(前年同期比+52.7%)

- ▶ 昨年6月より欧州iTouchの連結子会社化、今期よりキャスコの子会社化により大幅な伸びを達成。

●経常利益: 6,537百万円(前年同期比+306.4%)

- ▶ 子会社キャスコにおける過払引当金・貸倒引当金、支払済分を中間期時点で販管費に計上
⇒ 販管費に計上していたものを第4四半期で取り崩し、特別損失へ計上。
⇒ この処理により、約29億円分の営業費用が圧縮し、経常利益が増加。
- ▶ 昨年6月より欧州iTouchの連結子会社化、今期よりキャスコの子会社化により大幅な伸びを達成。

●当期純損失: 29,324百万円(前年同期比-201.2%)

- ▶ 中間期において、主に海外2G事業の急速なライフサイクルの進展により、子会社の投融資評価損を一括計上したことによる影響。
- ▶ 日本公認会計士協会が公表した利息返還請求による損失に係る引当金繰入額14,856百万円を特別損失として計上したことによる影響。

2006年第4四半期連結業績 (平成17年11月1日～平成18年10月31日)



単位:百万円

	2005年 本決算	2006年 第4四半期	前年同期比		主要因
			増減	増減率	
売上	41,469	63,325	21,856	+52.7%	昨年6月より欧州iTouchの連結子会社化、今期よりキャスコの子会社化による。
営業利益	1,464	6,499	5,035	+343.9%	①子会社キャスコにおける過払引当金・貸倒引当金、支払済分を中間期時点で販管費に計上。 ⇒販管費に計上したものを第4四半期で取り崩し、特別損失へ計上。 ⇒この処理により、約29億円分の営業費用が圧縮し、経常利益が増加。
経常利益	1,608	6,537	4,929	+306.5%	②昨年6月より欧州iTouchの連結子会社化、今期よりキャスコの子会社化による。
当期純損失	9,735	29,324	-19,589	-201.2%	①中間期において、主に海外2G事業の急速なライフサイクルの進展により、子会社の投融資評価損を一括計上したことによる。 ②日本公認会計士協会が公表した利息返還請求による損失に係る引当金繰入額を特別損失として計上したことによる。

■ 第5期～第7期 売上高・経常利益業績

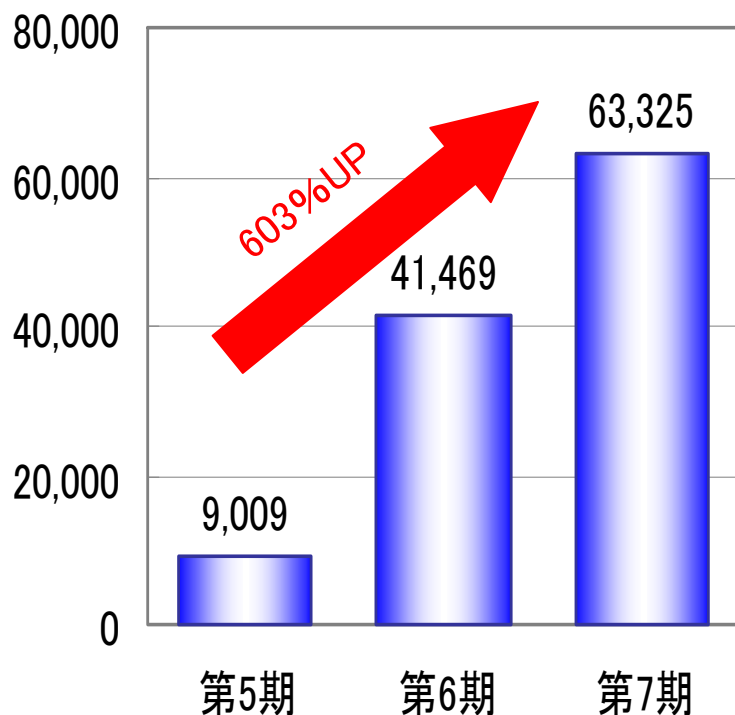


連結売上高・連結経常利益は過去最高値を記録

※第7期は14ヶ月決算に変更しておりますが、12ヶ月分(10月末まで)の数字となります。

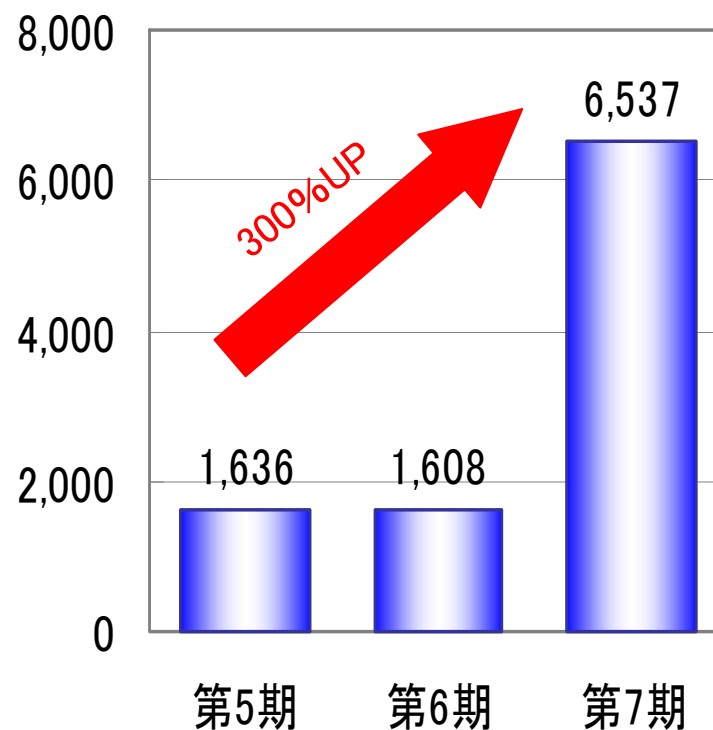
<連結売上高>

単位:百万円



<連結経常利益>

単位:百万円



■2006年度連結業績



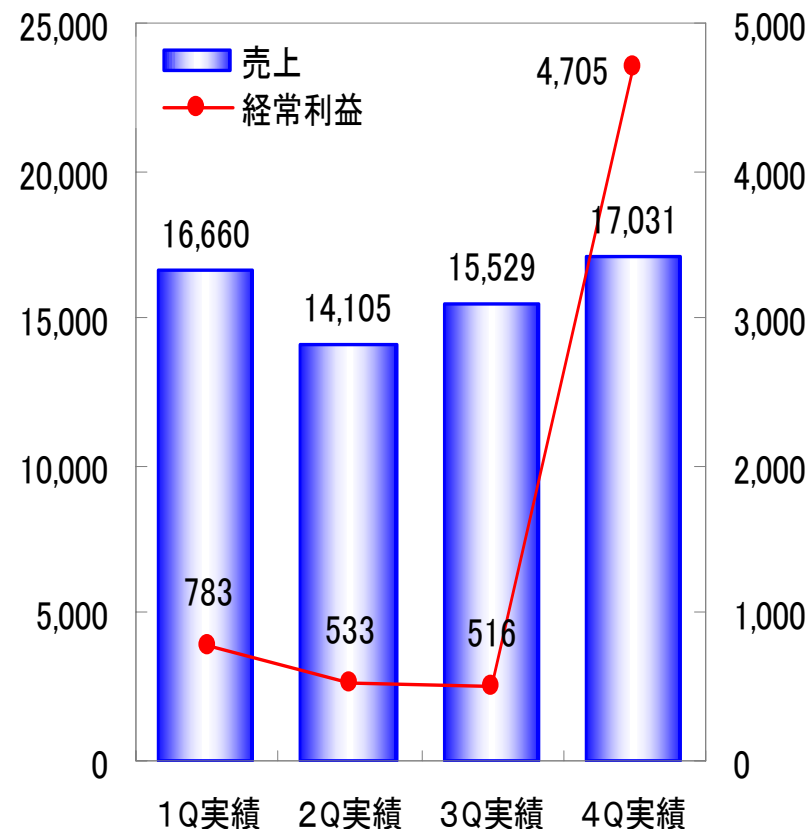
～四半期毎の連結業績推移～

- ◆売上高: 63,325百万円
- ◆経常利益: 6,537百万円
- ◆当期純損失: 29,324百万円

<四半期ごとの内訳>

	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績
売上	16,660	14,105	15,529	17,031
経常利益	783	533	516	4,705
純利益 又は 損失(△)	355	△19,800	△36	△9,843

単位:百万円



2006年第4四半期単体業績 (平成17年11月1日～平成18年10月31日)



単位: 百万円

	2005年 本決算	2006年 第4四半期	前年同期比		主要因
			増減	増減率	
売上	4,059	2,786	-1,273	-45.7%	①第3世代携帯電話(3G)向けコンテンツへの移行に伴い、第2世代携帯電話(2G)向けコンテンツの撤退による売上げの減少。 ②コンテンツホルダー領域強化のため、単体内部で売上構成比率を変化させたことへの影響。
営業利益	△544	△2,331	-1,787	-328.4%	売上高の減少に加え、 ①コンテンツ資産の償却負担が増加したこと。 ②コンテンツホルダー領域強化のための広告宣伝費がかさんだこと。
経常利益	△559	△1,671	-1,112	-198.9%	③グループ会社維持にかかる管理・運営コスト、売却にかかる費用(弁護士費用等)が発生したことによる。
当期純損失	11,018	34,550	-23,532	-213.6%	中間期に子会社株式評価損及び2G向けコンテンツ事業の撤退に伴い、今後利用見込みのない2G向けコンテンツ事業に係るコンテンツ資産等の一時償却や除却損を含む事業整理損を特別損失に計上したことによる。

■ 当期純損失(特別損失)の内訳

特別損失 37,358(単位:百万円)

<主な要因>

◆ 第4四半期にて発生

14,856 日本公認会計士協会が発表した利息返還請求による損失に係る引当金繰入額。

◆ 中間期にて発生

445 フォーサイド:2G向けコンテンツ撤退に伴う事業整理損。

773 リストラクチャリング(韓国 Wifefos 463 / iTouch 310):海外子会社における経営陣の刷新および従業員のリストラクチャリング。

7,696 Zingy(米国):コンテンツ・プロバイダーの企業価値評価の低下傾向に加え、これまでのプラットフォームサービスを提供してきた携帯事業者が、自社運営に切替えを決定したため、事業機会の損失として営業権と無形固定資産の商号を償却。

11,904 iTouch(欧州):複数の売却入札額から時価企業価値を算出し、営業権を償却。

466 その他